

【短報】ホウオウコメツキの追加記録と生息環境

ホウオウコメツキ *Houwau alpicola* Kishii, 1993 は、山梨県からの1雌個体をもとに記載され、その後長野県から2雄3雌個体(有本, 2005)、岐阜県から1雌個体(大平・豊島, 2010)が記録されているのみの1属1種の珍種である。筆者は長野県では2報目となる本種個体を採集しており、採集地点は有本(2005)においてすでに報告されている場所ではあるが、本種の生態解明の一端として報告することとした。

1♀, 長野県南佐久群八千穂村麦草峠(標高2,100 m), 15. VII. 2012, 筆者採集・保管(液浸標本)。

本個体は、立ち枯れたコメツガ *Tsuga diversifolia* の樹皮下(図1)から採集したものである。採集地周辺はシラビソやオオシラビソ、トウヒ、コメツガなどが優占する針葉樹林帯で、高層湿原が広がっており湿潤な環境にある(図2)。

Kishii(1993)や有本(2005)で用いられた個体がどのような経緯で採集されたのか詳細は不明であるが、大平・豊島(2010)の個体は衝突板トラップ(FIT)で採集されたものであり、トラップ以外の



図1. ホウオウコメツキが採集された立ち枯れ。



図2. 採集地環境。

方法で採集された報告は今回が初めてのことである。これまでの採集状況から、幼虫は樹皮下で育ち、成虫は羽化後もしばらくは樹皮下に潜伏し、6月下旬頃から野外に出現して、7月末頃まで発生していると予想される。採集されている地点は中部地方の標高1,800~2,500 mの間であり、本種が亜高山帯針葉樹林にのみ分布していることは確実である。本属が含まれるツヤケシコメツキ族 *Megapenthini* は東南アジアの熱帯林に分布の中心を持ち、本属のように針葉樹林帯にのみ分布する事例は、日本産の本族他種と比較しても非常に特異なものである。

引用文献

- 有本久之, 2005. ホウオウコメツキ雄の形態について. 甲虫ニュース, (150): 19-20.
 Kishii, T., 1993. A new *Megapenthini* in the generic and specific status (Coleoptera, Elateridae). Some new forms of Elateridae in Japan (XXIX). The entomological review of Japan, 48(2): 87-91.
 大平仁夫・豊島健太郎, 2010. ホウオウコメツキ岐阜県に分布. 甲虫ニュース, (169): 5.

(有本晃一 812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1 九州大学大学院生物資源環境科学府昆虫学教室)

【短報】九州・琉球地方におけるコメツキダマシ科甲虫2種の記録

筆者らはコメツキダマシ科甲虫を調査する中で、各地で未記録の種、記録の少ない種を得ているため、ここに報告する。

1. コガタフチトリコメツキダマシ *Microrhagus mystagogus* (Fleutiaux, 1923)

フチトリコメツキダマシ属 *Microrhagus* は、日本から4種が知られており、雄の触角が顕著に櫛状になることで他属から容易に識別できる。北海道から九州まで広く分布しているが、九州以南ではトカラ中之島から本種が記録されているのみである(久松, 1985, 1989)。筆者らは沖縄島で得られた本種個体を検する機会を得たので、初記録として報告しておく。

1♂, 沖縄県国頭郡国頭村辺野喜, 340 m alt., 26. V. 2011, 有本晃一採集・保管(液浸標本); 1♀, 沖縄県国頭村辺野喜伊江林道, 22. IV. 2006, 有本久之採集, 有本晃一保管。

筆者らが採集した個体は照葉樹林内に設置した4ワット蛍光灯に飛来したものである。本種は同属